

序文

本文は、ヴァイキングやケルト人のものを含めたヨーロッパ中世初期(9-12世紀)の衣服事情に関する研究を基に書かれたものである。ただし、本文は歴史論考ではない。現実の歴史を簡略化し、ハーン島の情報や出版物のイラストとの整合性を取れるように修正を加えたものである。

幻想世界を扱った現代の映画を見ていると、皆がつぎはぎだらけで粗雑な衣服を身に着けていたかのようである。しかし現実の中世の織物技術は、もっと進んでいた。(現実の歴史を基に創作された)リスミア大陸の織物技術は、少なくとも6,000年の歴史がある。11世紀の欧州(ハーン島の“現在”)と現代の最大の相違は、機械化、(良質とは言い難い)人造繊維、化学染料にある。

明るい色の染料の大半は、中世においても容易に利用可能であった。染色技術もしっかりと確立していた(いくつかの天然素材は扱いにくいものであったが)。にもかかわらず、中世社会の住民は、日常着を1着、教会参集用に1着の計2着の衣服を所有しているに過ぎなかった。

ハーン島

都市貧民の身なりは、ハーン島で一番みすばらしい。羊毛、亜麻、皮革など原材料に恵まれている分、農村部の非自由民のほうが良い衣服を身に着けているだろう。農村・都市を問わず自由民はより良い衣服を身に着けており、衣服を2着以上所有することもある。自由民の中では、概して衣服職人ギルドの構成員が一番良い衣服を身に着けている。貴族は狩猟用、宮廷仕立用、教会参列用など、様々な種類の専用の衣服を持っている。もちろんこのほかに、普段着を複数所有している。

本文は、社会の構成員が着用する衣服の基本的指針をGM及びプレイヤーの双方に提示し、PCの身なりも重要だと伝えることを目的としている。出自や物腰がどうであれ、農民の衣服を着ているキャラクターが貴族に直接会うことはありえない。服装によっては使用人頭¹に会うことすらできないのである。貧乏な身なりをしていれば、貧乏人としか扱われないのである。

例:武器職人親方であるユーザーのフェレンは、新品のプレート製ハーフヘルムを買い求めに来た2人の客を相手にしている。客の1人クァレルは、購入したばかりの真新しいチュニックとブリーチに身を包んでいる。もう一人の客ヒューは、ぼろぼろになった古着を着ている。クァレルは(新しい服を買うのに現金を使い果たして)ほとんど無一文である。ヒューはハーフヘルムを買えるだけの現金を所持している。フェレンは2人のどちらへ最初に声をかけるだろうか。どちらに支払い能力を認めるだろうか。

衣服職人

衣服職人は最大級のギルドを構成している。彼らは服地と衣服の双方を生産している。衣服職人親方は、仕立屋、手袋職人、服地商や小間物商などの技術をすべて

身に付けているが、その内ひとつかふたつを専門としている。多くの衣服職人が、多数の遍歴職人や徒弟を抱えた大規模な工房を有している。小型の専門店を経営する親方も、少数ながら存在する。

衣服職人ギルドが製造した品々は高価である。そのため、彼らの顧客は富裕な自由民及び貴族が中心となる。自由民のほとんどと、貴族のすべてが、衣服職人ギルドから服地や衣服を購入している。自由民及び貴族の女性は、裁縫も刺繍もできるので、自家で衣服を仕立て刺繍することも珍しくない。

衣服職人ギルドの独占権は、誰からも無視されている。ハーン島の農村部に住む非自由民は大抵、自分で糸を紡ぎ、機を織り、自分たちの衣服を仕立てている。農村部の既婚女性はほぼ全員、紡ぎ、織り、仕立てることができる(未婚女性は糸紡ぎで自活するため「紡ぎ女」(spinsters)と呼ばれるのである)。農村部に住む小作人たちは、自家製の亜麻布や毛織りでできた衣服を身に着けている。

衣服職人は、亜麻布、毛織り、皮革の3つを基本素材として衣服を制作する。冒険家には人気が高いが、革製衣服は比較的希少である。価格や重量についての詳細は、「ハーンマスター」の「戦闘 4」を参照。亜麻布と毛織物の大半は、市場にて梱単位で販売されている。

素材

ハーン島では以下3種の素材が一般的に利用される。

亜麻布

亜麻布は、亜麻糸を織り上げて作られる生地である。滅多に見られない高品質なものでない限り、ハーン島で亜麻布は安価かつ軽量の衣服の素材である。

亜麻は(普通は青い花をつける)開花性植物で、織物用の繊維や(亜麻仁油の原料となる)種を採るために栽培される。モーガット下旬からナゼイエル月上旬にかけて種が蒔かれ、ケレンに花を咲かせる(各々の花は数時間しか咲いていないが)。収穫期はアグラザールである。植物は引き抜かれると、湿気に晒す(腐敗させる)ため地面に放置される。湿気に晒したあと、波打たされる。これは種を採るための作業である。それから繊維が採られ、品質ごとに分類される。上質の繊維は湿っているうちに紡がれ、服地用とされる。その他は乾燥後に紡がれ、帆布用かバックラム(訳注:糊や膠で固めた亜麻布)とされる。

毛織り

毛織りとはもちろん、羊毛のことである。羊はケレンごろに毛を刈られ、その羊毛は束にして衣服職人に売却されるか、作業場で(羊飼いの妻や、近隣村落の女性たちによって、時には荘園の貴婦人によっても)紡がれる。

皮革

最も一般的な鞣し皮^{なめ}は牛皮であるが、大抵の家畜の皮が鞣される。皮革の価格は様々であり、元となる動物が珍奇であればより高価となる。革製の衣服は比較的珍しい存在である。革製品は大抵、皮革職人や武器職人ではなく衣服職人によって製造される。革製衣服は実用着

ハーン島における服飾事情 2

であり、流行で着るものではない。宮廷出仕時に身につけるようなものではない。農村部の非自由民は靴以外には革製品など持っていない。ギルド所属・非所属を問わず職を持つ自由民の大半は、何らかの革製衣服を身につけている。狩人は革製チュニックを、金属職人及び武器職人は革製前掛けを着けていることが多い。

その他の素材

ハーン島の一部では以下の高価な素材も登場する。

エメルレネイ亜麻布

リスニア大陸のエメルレネイ王国から輸入される、極上の亜麻布。ハーン島産よりも柔らかくて軽量かつ高品質。

絹

世界の遙か彼方から膨大な費用をかけて輸入される、非常に軽く上質な素材。非常に高価である。欲しいと思っても価格を尋ねても、まず買えるようなものではない！

駄目になるほど着古された絹製衣服を解き、糸を回収し新しい衣服に作り替えられた中世の事例も存在する。これは中世経済における絹の価値を表している。

染料と染色技術

染色とは芸術である。卓越した染め物師は、衣服職人ギルドに属する専門家でもある。彼らは様々な染料や媒染剤を用いて、多様な色彩を創り出す。一部の色彩は重ね染めによって創り出されるが、動植物を原料とする各種染料を混ぜ合わせて使用することはない。染め物師の大半は、1種の染料で1色を作り出すことを好む。

野生の染料原料植物は、薬剤師ギルドより供給される。

媒染剤

媒染剤は、染料の定着を助ける。最も一般的な媒染剤の1つが明色を付けるための明礬で、発酵させた尿や樫か榛の木片、海藻灰から作られる。海藻灰もまた用いられる。鉄や銅もまた媒染剤として用いられる。

染料

染料は、動物性、植物性、地衣類性の3種からなる。これらを用いることで、様々な色彩を作り出せる。意外なことに一般的な染料であっても衣服の価格を著しく押し上げ、在り来たりの色でも10%増し、色によっては50%増しまでありうる。とりわけ一般的な染料は植物性である。茜(赤)、大青(青)、一つ葉金雀枝(緑)、黄花木犀草(黄)のような染料植物は庭園で栽培される。農村家庭では、彼らの自家製衣服を染めるためにこれらを育てている。

色彩

青

青の染料は、苔桃、接骨木、水蠟の木、鱗木、黄菖蒲の根、そして最も一般的な染料である大青から作られる

(価格:10-30%増し)。

黒

黒の染料には、榛の木の樹皮、ブラックベリーの新芽、沼地の泥濘を鉄の鍋で煮たもの、樫の樹皮などから作られる。これらの大半は、非常に黒に近い茶色を出す(価格:5-20%増し)。

茶

茶色の染料には、榛の木、樺、ホップ、玉葱の皮などから作られる(価格:5-20%増し)。

緑

緑の染料には、蕨、羊蹄、狐の手袋(ジギタリス)、刺草などの暗い緑を出す植物などから抽出される。緑色は、ある種の黄色を大青と重ね染めして作ることもできる。それには巧みな技術が必要である(価格:10-20%増し)。

桃

桃色は、茜から抽出される(価格:10-20%増し)。

深紅

深紅はハーン島北部(オーバル)で採れる地衣類から抽出される。一般向けとしては高価な染料の1つである(価格:25-50%増し)。

赤

赤は(カイガラムシなどの)昆虫類や榛の木、茜や羊蹄の根などから抽出される(価格:10-20%増し)。

紫

まずまずの品質の安価な紫色の染料は、ブルーベリーから抽出される。ベリー類は成長が早く、野性の食物として好まれており、染料用としてより食用として地元の農民たちにより採り尽くされてしまうことのほうが多い。その色彩は、「王者の紫(タザチ紫)」に比べると青紫に近い。タザチ紫(非常に高価な輸入染料)は、衣服の価格を極度に押し上げる(価格:20-200%)。

黄

黄色を抽出可能な植物は非常に多種類である。トネリコ、樺、金雀枝、野生林檎、針金雀枝、ギリユウモドキ、万寿菊(マリゴールド)、水蠟の木、黄花木犀草、西洋弟切草などが挙げられる(価格:5-20%増し)。

衣服の染色

高価な衣服は普通、染色されている。大抵は明るい色である(淡い色は、ファッション性ではなく単に着古し色褪せただけである)。上質の毛織り、亜麻布、絹は染色見本で色を指定し染色される。一部の衣服職人は、編む前に羊毛を染色することで様々な格子模様を作り出している。これはジャリン文化圏では一般的な技法である。安価な毛織り、亜麻布、帆布が染められることはまずない。

一般的に用いられる色は、濃い(紫がかった)青、薄い青、薄い緑、濃い緑、鮮やかな黄、赤、茶、黒であり、これらは最も安い染料である。染色されると、衣服の価格は5-25%増加する。白は漂白によって実現されるが、汚れが目立つことから特定の宗派の聖職者などを除きあまり

人気がない。「王者の青」「王者の紫」は非常に高価で、大抵の地域で貴族以外には禁じられている。

衣服

以下は、ハーン島で日常的に着用される衣服の一覧である。ファッションの変遷はきわめてゆっくりで、革新的または奇抜な様式の衣服の生産を考えるのは、非常にやる気ある(または高収入を得ている)衣服職人のみである。

衣服が着用者の社会身分や地位を決定する重要な要素の1つであることに注意。粗末な自家製毛織りのレギンスとチュニックを身に着けた伯爵は農奴のように扱われるし、伯爵であると分かっても公式に証明されるまでは疑惑をもって処されるだろう。小作農でも上質かつ高価な毛織りのローブを身にまとい、(ありえないことだが)貴族のように話し、振舞えたならば恭しく扱われるだろう。しかし、このような誤魔化しが発覚したなら、伯爵は奇人か病人として扱われ、小作農は確実に処刑されるだろう。

以下は一般的な衣服の名称と解説である。一部では、歴史的に正確でない名称や、何通りかの別名のひとつが使われている(アンダーチュニックとチュニックは、同じくらい正しいチュニックとオーバーチュニックという言い方もあるし、もっと紛らわしいチュニックとチュニックとも言える)。

農村の小作農は自家製か隣人と物々交換した衣服を着ている。ハーン島の大半では、様々な品質の毛織りの衣服が利用されている。亜麻布製衣服は、アリース市周辺地域で一般的である。

ブリーチ (半ズボン)、トゥルーズ (ズボン)

ズボンまたはトゥルーズは、腹部から膝下または足首までを覆っている。この衣服はゆったりとしており、帯や紐で締められ、もっぱら男性のみが着用する(もちろん貴方の「ハーンワールド」における女性の解放度次第であるが)。ズボンは普通毛織りかバックラム製であるが、革製のものも存在する。

シュミーズ

婦人用の亜麻布製下着。シュミーズは男性用のシャツ(後述)と同様の形状をしているが、より丈が長い。少なくとも両肩と胴体、臀部と股間とを覆う。腕を覆ったり、膝か足首、足にまで達するものもある。

クローク (長外套)

丈の長い上着で、少なくとも膝下までを覆い、裾が地面に引きずられるものもある。フード(後述)の付いているものもある。普通の外套は、単なる長方形または半円形の布地にすぎない。外套はブローチや止め針、時には布の紐で、外套そのものか他の衣服に留められる。

コイフ (頭巾)、キャップ (縁なし帽)

頭蓋部と、しばしば耳や頬までを覆うように作られた、布製または革製の帽子。普通は頭にぴったりとしており、顎の下で紐を結ぶ。

ガードル (腰帯)

しばしば手の込んだ刺繍の施される、幅広の布製の帯。自由民と貴族の女性のほとんどが、他の衣服の上で腰にガードルを巻いている。腰帯は普通、背中で紐を結ぶ。

ハット (帽子)

帽子は主としてファッション目的で扱われる。形状や大きさ、値段も多種多様である。カンデイ王国西部で広く扱われている「コルビ」という帽子は安価である。カルドア王国の貴族は高価な素材で作られた帽子を好む。円錐形の帽子は、鏝の有無を問わず、多くの貴婦人や一部の学者(特にシェク・ブヴァー)に好まれている。円錐の上部を平らにして縁を付けたコイフもまたよく扱われる。明るいい色に染められることが多く、また装飾が施されたり、特に孔雀の羽などで羽根飾りを付けられたりする。ほとんどのハットは頭部のみを覆う。

フード (長頭巾)

おだまりの被り物。フードは頭部と首、肩と胸の上部を覆う。通常はゆったり目に作られる。最も一般的なフードはリラパイプである。リラパイプは長い円錐形をしており、大抵は先端まで1フィート(30cm)以上もある。垂れた先端が頭や首を覆い、暖かくしてくれるのである。フードは一般には男性用とされているが、女性、特に老女が身に付けることもある。フードをターバン風の帽子として被ることもある。これは、顔を出す穴を思い切って配置し、残りの布地を頭の周りに巻き付けるというものである。貴族の間で人気の高いファッションである。

ホース (タイツ)

足を覆う衣服で、筒状に織られるのではなく、裁断した布を巻いて縫うか、紐で縛る。少なくとも脛ら^{ふく}脛と脛を被い、ものによっては臀部または(稀に)腹部まで被う物もある。普通は染色された亜麻布製で、自由民及び貴族の服装とされている。(ホースは古いハリウッド製映画に見られるようなぴったりした「タイツ」ではなく、だぶだぶの布製の筒にすぎない)

レギンス (脛当て)

脚部の周囲に巻き付ける、布製または革製の布地。ホースの別称でもある。大抵のレギンスは安価な染色されていない布地であり、小作農の服装とされている。

マント (外套)、ケープ

この衣服は単なる長方形または半円形の布地であり、普通右肩のところで飾り止めやブローチで留められる。一般庶民が着ることは滅多に無く(寒い時に毛布と同じ様に下げることがあるが、もっと安価なものである)、通常は膝の後ろ辺りまで垂れる。女性用のマント、特に既婚女性用のものは、フードとしても着用可能なように穴が空けられており、その場合でも腰まで垂れる。

ローブ

ローブは肩から足首までを被う衣服で、袖が付いているものと付いていないものがある。ローブは適切な寸法よりも長く作られ、必要に応じて帯を使って丈を調整する。

男性用ローブはゆったりとしており、通常は僧侶や学者、貴族が着用する。そのため、それらは大抵上質な衣服である。裾から膝か臀部までのスリットが(通常は側面か前後、時には両方に)入って、着用者が騎乗できるようになっているものもある。

女性用ローブは、あらゆる社会身分層で着用されてい

ハーン島における服飾事情 4

る。農民用ローブは、大抵は自家製で、無染色か自家染色の、毛織りか亜麻布で作られる。自由民や貴族の女性用ローブは、もっと手の込んだものとなる。より良質の素材、大抵は上質の毛織りで作られ、柄が付けられたり刺繍されたりする。安価なローブは丈長く、ゆったりした作りになっている。上等な衣服を買える人々向けの、現在の流行は、ローブの側面、尻から脇にかけて(また時には前後に首から腰にかけて)スリットを入れることである。これを紐できつく締めて、姿態を見せつけるのである。女性用ローブも男性用と同様、前面や側面の裾からスリットが入っていることがある。下に着ている(通常は華やかな装飾の施された)アンダーチュニックを引き立たせるためである。

シャツ

上腕、胴体、臀部と股間を覆う、一般的な男性用下着。亜麻布製がほとんどである。

サーコート

「サーコート」と呼ばれる衣服は、2種類ある。両者は実際にはまったく同じであるが、各々の着用者はそれらをまったく別のものと考えている。サーコートは、頭を通す穴の開いた(ただし多くは側面を縫い付けた)長方形の布で、肩から腿または膝までを被っている。2種類とは、庶民が外套として着る自家製のもの、傭兵や騎士、貴族とその召使いが鎧の上に着るものである。違うところは、衣服の品質と、騎士や領主の業績を象徴する意匠の有無くらいである。サーコートは腰の位置で、帯で締められる。

チュニック

特に女性用は「タバード」とも「オーバーチュニック」とも呼ばれる。少なくとも胴体と臀部の前後を覆う。腕の一部か全部、さらに膝上または膝下までを覆うものもある。この衣服の女性向けのものも同様である。チュニックは普通毛織りかバックラム製であるが、革製のものもある。

アンダーチュニック

衣服の基本にして最も広く普及しているものの1つ。この衣服(通常は毛織り製)は、腕と胴体、尻の前後(時には大腿部)までを覆う。男性用アンダーチュニックは事実上シャツと同じで、暖かな季節に着られる唯一の上半身用衣服である。女性用はより丈が長い。少なくとも脛までの長さがあり、足首まで届くものが普通で、地面を擦るものも珍しくない。長袖付きのものはしばしば、男性用も女性用も、手首のところで締める紐が付けられている。

ベスト

肩と胸部、腹部を覆う、亜麻布製下着(シャツの別名)。あるいは、革製の上着や、同じ身体部位を覆う鎧。

ウインプル (ベール)

2枚組の布からなる女性用フードで、結婚の証のため未婚女性は身に着けない。例外はピオーニ教会の女司祭で、彼女たちは教会と結婚したとされるためである。

留め具

この時代、ボタンもポケットも発明されていない。衣服は紐か、輪穴とトグル(木製の留め棒)で留められる。小物類は、帯に取り付けられる小袋または財布に入れられる。

衣服の組み合わせの典型例

典型的な男性小作農は、亜麻布製シャツ、毛織りのアンダーチュニック、毛織りのレギンスかブリーチ、毛織りのチュニック、毛織りのハットまたはフードを身に着ける。彼はまた革製の靴を1足所持している。冬には単に重ね着をするだけだが、極寒時にサーコートを持っている。

典型的な女性小作農は、毛織りのアンダーチュニックかチュニックかローブのいずれか、フードかウインプル、おそらくは革製靴や亜麻布製シュミーズも着用する。暖をとるには、肩掛け代わりに毛布や、外套が頼りである。

自由民の衣服は、様々である。自作農および非ギルド構成員の大半は、小作農とあまり変わらない服装であることが多い。より富裕な非ギルド構成員及びギルド構成員は、ずっとよい身なりをしているだろう。

典型的な男性自由民は、良質の毛織りのアンダーチュニックやチュニック、ブリーチ、ハットかフードを着用する。また革製の靴かブーツ、おそらくは亜麻布製のシャツやホースも着用するだろう。クロークまたはマントを所有していることもある。

典型的な女性自由民は、自家製のアンダーチュニック、チュニック、ローブのいずれかと、フードまたはウインプルを着用する。また革製の靴かブーツを履くだろう。亜麻布製のシュミーズやホースも身に着けていそうである。冬のために、クロークやマントも持っているだろう。

大抵の貴族は1名(以上)の衣服職人と契約して使っている。貴族は、良質な布地を用いた明るい色の、様々な種類の衣服を着用する。

衣服と社会的地位

ハーン島出身者なら大抵、衣服から相手の富裕度と社会的地位とを見積もることができる。また相手が「この辺の奴じゃない」ことも分かる。カンデイ王国ではある種のハットが、王国西部の住民とエリーナ川流域住民とを区別させている。大半の王国で、都市住民は「田舎者」を簡単に見分けられる。このことは、プレイヤーに面白い結果をもたらしてくれるだろう。

武器を携行し鎧を着用しているが身なりが貧相なキャラクターは、傭兵または悪漢と思われるだろう。そのようなキャラクターは、周囲の人々から嫌疑と警戒と恐怖の目で見つめられることになる。そして地方の官憲に通報され、厳重な監視と誰何の声に悩まされることになるだろう。

同じ武器と鎧でも身なりのよいキャラクターは、地方領主や、少なくとも貴族の側近であると思われるだろう。悩まされることはまず無く、大抵は恭しく扱われるだろう。

クレジット 筆者

Neil Thompson

翻訳

田沼 貴弘